



ゆうメール

残暑が厳しい9月、二学期がはじまりました。高く眩しい空の下、子どもたちは、運動会や音楽会と賑やかな秋をむかえています。

今回は、※「自立した子」を育てるための関わりの中で、意識したいポイントをお伝えします。

◇観察する意識を持つ

これはわたしが子どものころの出来事です。

わたしは、人から得意な科目は何？と聞かれることがとても嫌でした。何せ得意な科目など、ひとつもなかったからです。子どもながらに恥ずかしいと思っていた記憶があります。

小学生の夏休み、わたしは働いていた母の代わりに家のぬか床をかき混ぜるという簡単な手伝いをしていました。それはただぬか漬けが好きでやっていた手伝いでした。しかし毎日欠かさずかき混ぜていたわたしに、母は「前よりぬか漬けがおいしくなった。ありがとう。」といてくれました。日頃から成績の良い兄と学校や周りの人に比較されていたこともあり、自分なんて、何も良いところがないと思っていたわたしにとって、思わず気持ちがほぐれる出来事でした。

いま振り返ると、そんなささやかなことでも、自分を観てくれている。そう思えるだけで、少しでも、自分の存在をよしと思えた瞬間だったと思います。

親は無意識のうちに、子どもに良くなってほしい、成長してほしいと思うがあまり、ついできているところではなく、できていないところにばかりに目がいつてしまいがちです。親なら仕方がないことかもしれませんが、できているところも、できていないところも含めて全部大切ということが認めるといことです。

◇できていないところは伸び代と考える

そして今では、わたしも親になりました。

子どものころの記憶はどこかに置いたまま、気が付けば、息子に注意ばかりする日々です。

「ゲームの時間が過ぎてる！」「早くしなさい！」

「何回同じことを言わせるの！」など。

息子はわたしの話をいつもほぼ黙って聞いていました。しかしあるとき「わかっていることを言われることほ

ど嫌なことはないから」と言われました。

わたしは、正直しまった！と思ったんです。

12歳になれば、子ども自身にも自分が、どこができていて、どこができていないかを自覚していることも多いはずですが、わたしは母親として心配だからという理由で、息子を信じ切れず、自分の思いをぶつけていただけではなかっただろうか。できていないところはこれからの伸び代だと思う覚悟がなかったのではないだろうかと思いました。

わたしが「ごめんね、分かっていることばかり言って。」そう言うと息子は、静かにうなずいていました。

できていないところはこれからの伸び代と思えば、それだけで、かける言葉も変わってくるかもしれません。伸び代と思う側にも覚悟が必要です。

◇子どもが考える場をつくる

それからは、息子に勉強のやり方や毎日の過ごし方、子ども自身が決められる範囲で具体的な計画を立ててみることを、自分のやり方で進めていくことを提案しました。息子が自ら対策や方法を考えることは、自立への小さな一歩につながります。

ときにはわたしが、母親として手伝えることも加えながら試行錯誤を重ねています。

その後、息子は劇的には変わっていません。

ただどほんの少し、自分のやりたくないことや、面倒に感じていることと、向き合っているように見えます。行きつ戻りつの日々です。

◇意図(目的)を意識して思い出す

そもそもなぜゲームの時間を守る、行動を早くするなどの注意をしていたのか、意図を改めて考えてみると、自己管理ができる子になってほしいと思っていたからです。しかし、つい目の前の息子の様子にイライラしてしまい、そもそもの意図には効果的ではない関わりをしていました。意図を思い出し意識することで、自分の関わりや行動を省みることができます。

(裏に続く)

〒658-0047

神戸市須磨区離宮西町 1-2-20-104

NPO 法人 マザーズサポーター協会

母親になって今年で12年、まだまだ未熟な母親と未熟な息子、きっとこれからも感情をぶつけ合うこともあると思います。ただそのとき、共に考えていくスタンスだけは、忘れないでおこうと決めています。

これは子育てだけに、限ったことではありません。例えば、大人同士でも理解できない、馬が合わない人がいる。よくあることだと思います。

しかし意図を考えれば、たとえ苦手な相手だとしても、その人と何をつくりだしていかなければいけないのか何がそもそもの目的だったのかを考えることで行き詰った状態から動き出すことができます。

少しでも気持ちのいい人間関係を築くために意識してみてはいかがでしょうか。 (文責：菅野 美樹)

※自立について

- 「自立」とは
自らの人生や仕事において、「自分が選択している」という意識があり、その選択に責任を持っていること。
- 「自立した人」とは
一人ひとりが自分で考え、壁を乗り越える力を身につけていること。何か問題が生じたとき、他人への責任転嫁(他責)ではなく、つねに当事者意識を持ってあたること。
- 「成熟(自立)した組織」とは
組織自体に問題解決する能力があり、協働の雰囲気大切に、必要なときに改善に向けて話し合う力があること。一人ひとりの力が十分に発揮されていること。



「NPO 法人マザーズサポーター協会ニュースレター第24号」をお読みいただきありがとうございました。過去に情報提供のご希望があったみなさまに、送付させていただいています。

今後もさらに内容を充実させ、育てる側に役立つ「自立型支援方法」の情報やイベントのご案内などを発信させていただきます。

もしご不要の場合は、お手数ですが下記のメッセージにお名前を明記の上「不要」とご記入いただきFAXか、メールを頂けたらありがたいです。どうぞよろしく願いいたします。

ご意見、ご感想などもいただけましたら、今後に反映していきたいと思っております。いつでもお待ちしております。

✂-----キリトリ線-----

| |
|-----|
| ご感想 |
|-----|

HPなどに掲載(イニシャルやペンネーム)させていただく場合がありますので、お好きなお名前をお聞かせ下さい。

| |
|-----|
| お名前 |
|-----|

ありがとうございました！！



～信頼関係を作り、自立と当事者意識、考える力を育てる「自立型支援方法」～

<http://m-supporter.com>

FAX078-731-0615

NPO 法人マザーズサポーター協会